

# やまと 民俗への招待

民俗学に関心を寄せる人が集まり、奈良民俗文化研究所が開催する。毎年、古文書を朗読し解説する講座を開催している。本は、読もうと思えば一人でどこでも読める。しかし私たちが長らく親しんできた和風の家で、個性を帯びた音として語られた言葉

3年になる。毎年、古文書を朗読し解説する講座を開催している。

うな気がする。共通するテーマは日本人の暮らしが文化であり、それには心を寄せた先人の言葉があるからだ。今年の第1回は、大和郡山市洞泉寺町の旧川本家住宅で、高橋秀夫氏による「姫田忠義の映像民俗学」だった。奈良市で無農薬野菜の八百屋を営みながら、姫田（1928～2013）の作品を長年紹介してきた彼が「奥会津の木地師」の映像や

## 未来のための記録

彼の言葉を朗読した。  
映像は淡々としながら、木地小屋作りや椀

の木地製作の様子は、

圧倒的な迫力があった。

姫田は「民俗文化は、不思議な力を發揮し、毎回充実した空間となる。語り方も読む本も、人により異なるが、人々と話す言葉と建物が静かに共鳴しているよ



「姫田忠義の映像民俗学」をテーマに旧川本家住宅で行われた講座  
—大和郡山市洞泉寺町で、筆者提供

めにある」として多くの映像記録を作った。その姫田は民俗学者・宮本常一（1907～81）に出会って自らの進む道を決めた。

日本列島に生きて日々の暮らしを営んできた庶民の生活とその文化は、遺伝子のよう

に私たちの心と体にまだ埋め込まれている。奈良民俗文化研究所は、これを発見し自覚するための小さな橋渡しの場になりたいと思

う。第2回以降は大和民俗公園（大和郡山市矢

田町）内の民家で開催。6月26日＝与謝野晶子のくらしと歌（勺櫛子）▽7月17日＝高田十郎の大和（鹿谷勲）▽9月25日＝柳田国男の「火の昔」（武智功）▽10月30日＝折口信夫の大和（西村博美）。

時間は午後1時半から3時。資料代200円。詳細は研究所ホームページ（「なみんけん」）で検索）。

（奈良民俗文化研究所  
代表・鹿谷勲）